



**2023年
11月号**

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<https://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 瀬山 会治

印刷所
文明堂印刷所

司祭(さん)……司祭館……聖堂……

司祭 パウロ 松本 正俊

年齢を重ねてくると、当たり前前のことが新鮮に思えたり、過去の知識や知恵が大切なものとそうでなかったものとの識別が出来たり、全く新たな出来事に遭遇し、新しい発見・気づき・感動が与えられることがよくあります。

定年退職後、機会が与えられて教会に住み込み、定期的な「朝、昼、夕の礼拝」を行い、個人的には朝起床後「ロザリオの祈り」と「テレビ体操」をして心身ともに目覚めてから聖堂にて「朝の礼拝」に臨むというような生活をしています。今まで経験したことの

ない「信仰(司祭)生活」の霊的な大いなる喜びを感じているところです。

教会暦に従って「朝、昼、夕の礼拝」、固定祝日、小祝日の礼拝を献げていると、『毎日聖書を朗読し、詩編を歌って神をほめたたえ、祈りを献げて日々の生活を神と人々のために清めることは初代教会からの営みであった。私たちも「朝の礼拝」「夕の礼拝」によってこの営みに加わるのである』(「朝夕の礼拝」のルブリック、祈18頁)ということや、聖餐式の解説文の「参入」の箇所(祈159頁)に



ある『主が十字架の上に一たび成し遂げられ、今も続けておられる愛のみわざに参入する』との理解が、今までより深く体感できるのです。初代教会の時代から連綿と変わらない三位一体の神さまのお働きを心と体で感じ受け止めることが出来るのです。

私たちは、教会に出かけ礼拝を行うのですが、言うまでもないのですが、私たちの礼拝は、主なる神さまが主役です、私たちは神さまに招かれて集まっているのです。ですからこの世の集会とは全然違います。

礼拝の時や場は、たとえ私たちが感じられなくてもキリストが確かにご臨在なさいます。私たちの聖堂の中に、私たちの傍に、私たちの中にい

て下さるのです。私たちと共に祈って下さるのです。ですから私たちは『選ばれた民、聖なる国民、神のものとなった民』(「神の民」(1ペトロ2章9節))として招かれ召されたのです。

私たちはそのことのために「三聖職位」を大切にしたいと思います。主教、司祭、執事は使徒時代より継紹された(日本聖公会綱憲)職位です。聖公会には「牧師」という職位はありません。勿論「先生」という職位もあります。

呉信愛教会の(管理)牧師は小林主教さんです。私は牧師ではないので(たとえ牧師であっても)信徒の皆さんに「司祭(さん)」と呼んでほしい。」と言っています。又牧師館ではなく「司祭館」と、勿論礼拝堂は「聖堂」と言いたいです。信徒の方とは出来たら「洗礼名十名前」で呼び合いたいです。

(呉信愛教会 囑託司祭)